



院内がん登録

2013 年症例 5 年予後解析

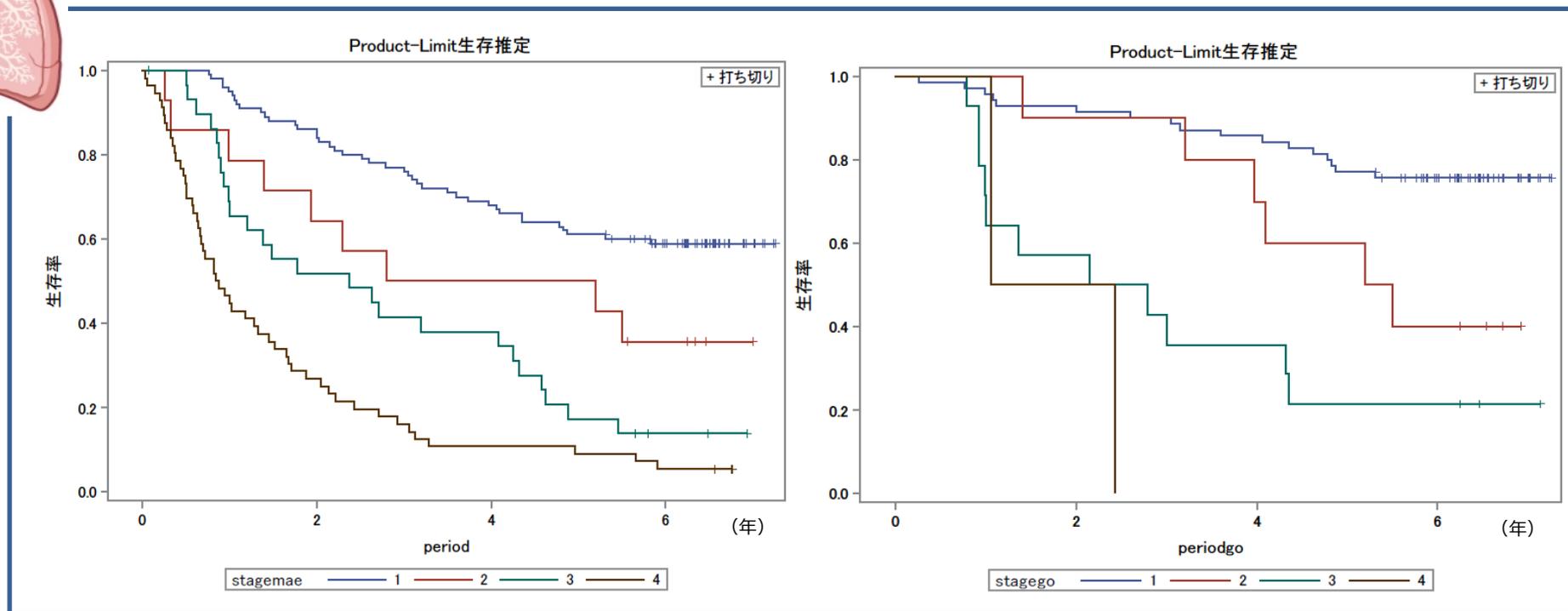
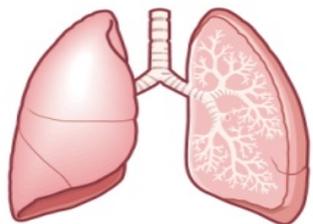
2019 年調査

肺・大腸・胃・肝臓・乳房・前立腺・子宮・卵巣・男女別

徳島大学病院

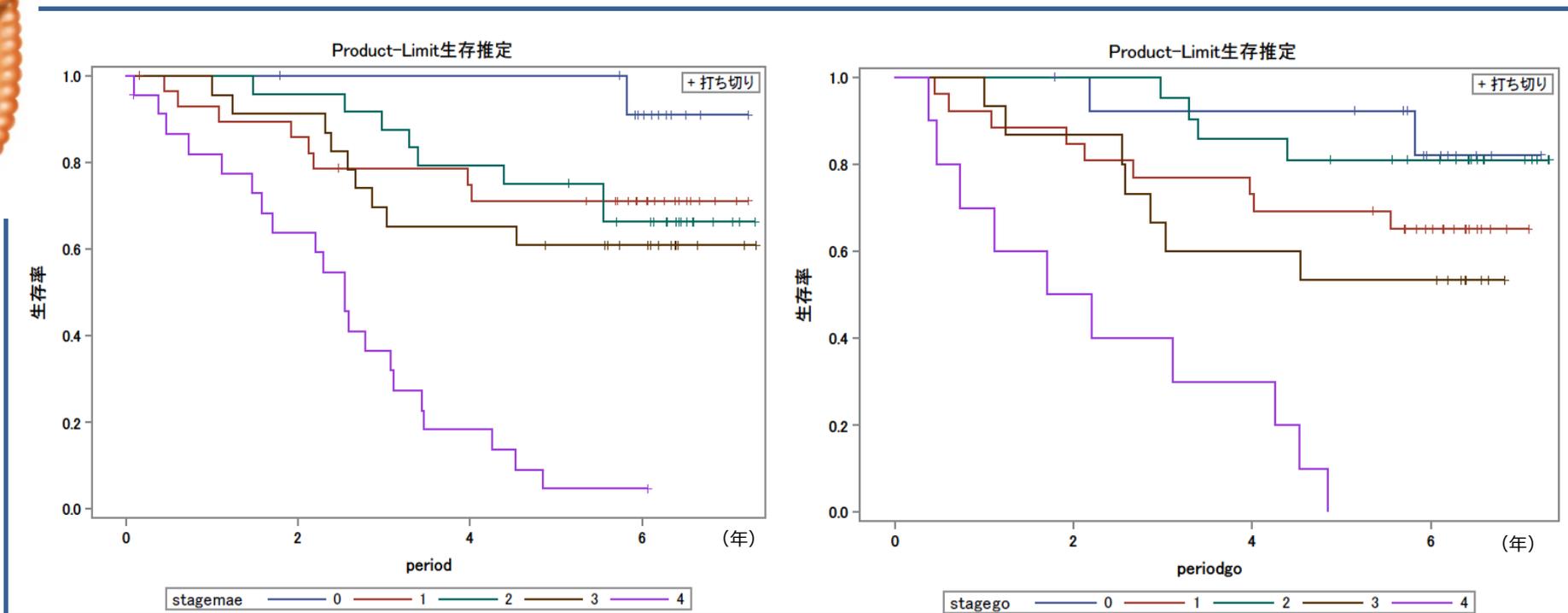
がん診療連携センター がん登録部門

2021 年 1 月 12 日



※当院のがん患者さんでは肺がんの割合が最も多く、実測生存率はⅠ期60～70%、Ⅱ期約50%、Ⅲ期は約20%、Ⅳ期10%未満であった。

組織型は腺癌が50%以上、扁平上皮癌約20%、小細胞癌約10%、その他（悪性リンパ腫・カルチノイド等）が20%であった。

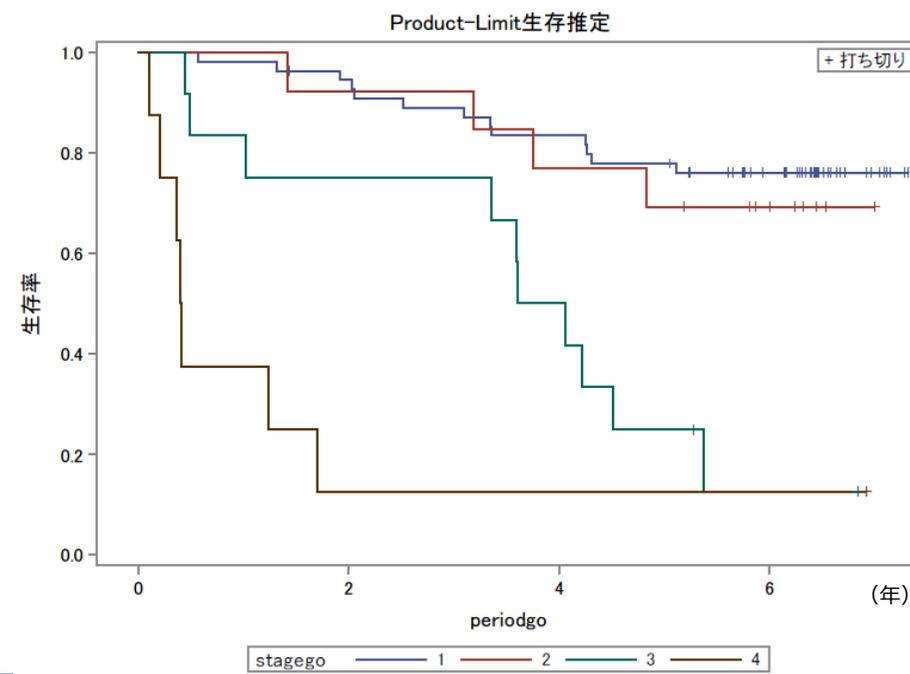
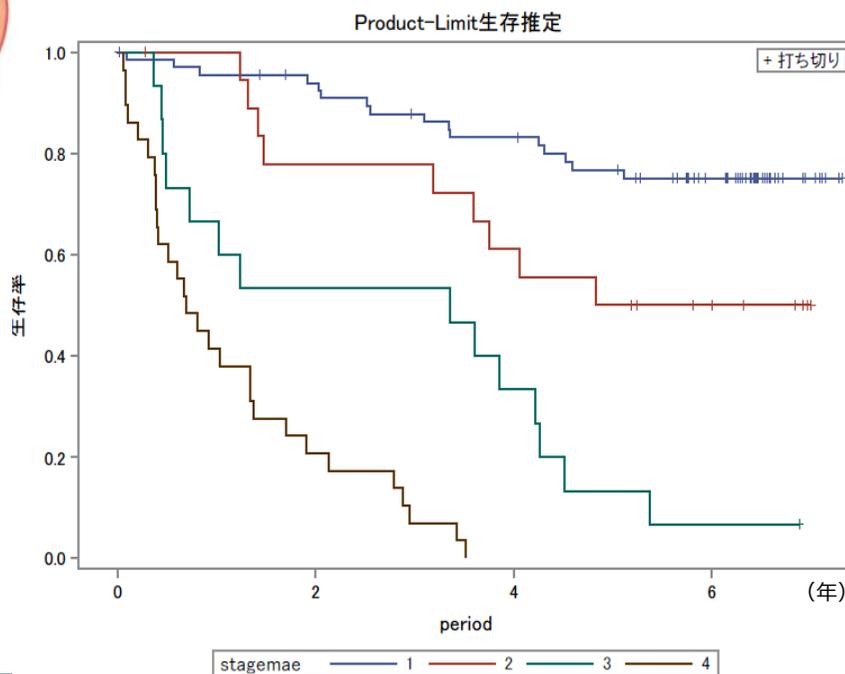


※他のがん種と比較すると、ステージ別数の偏りがなく、術前の実測生存率についてはI期～III期で60～70%であった。

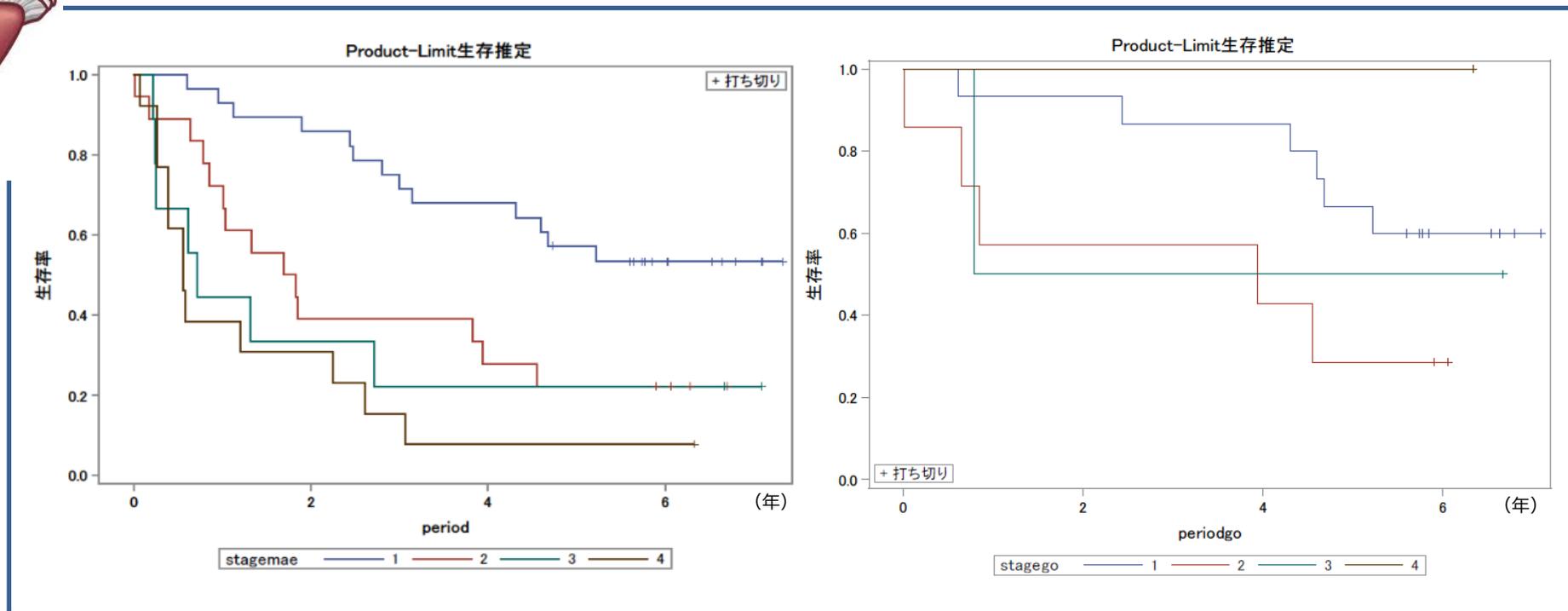
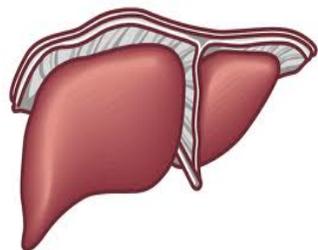
組織型は腺癌が約90%、その他は悪性リンパ腫・カルチノイド・GIST等であった。



生存率

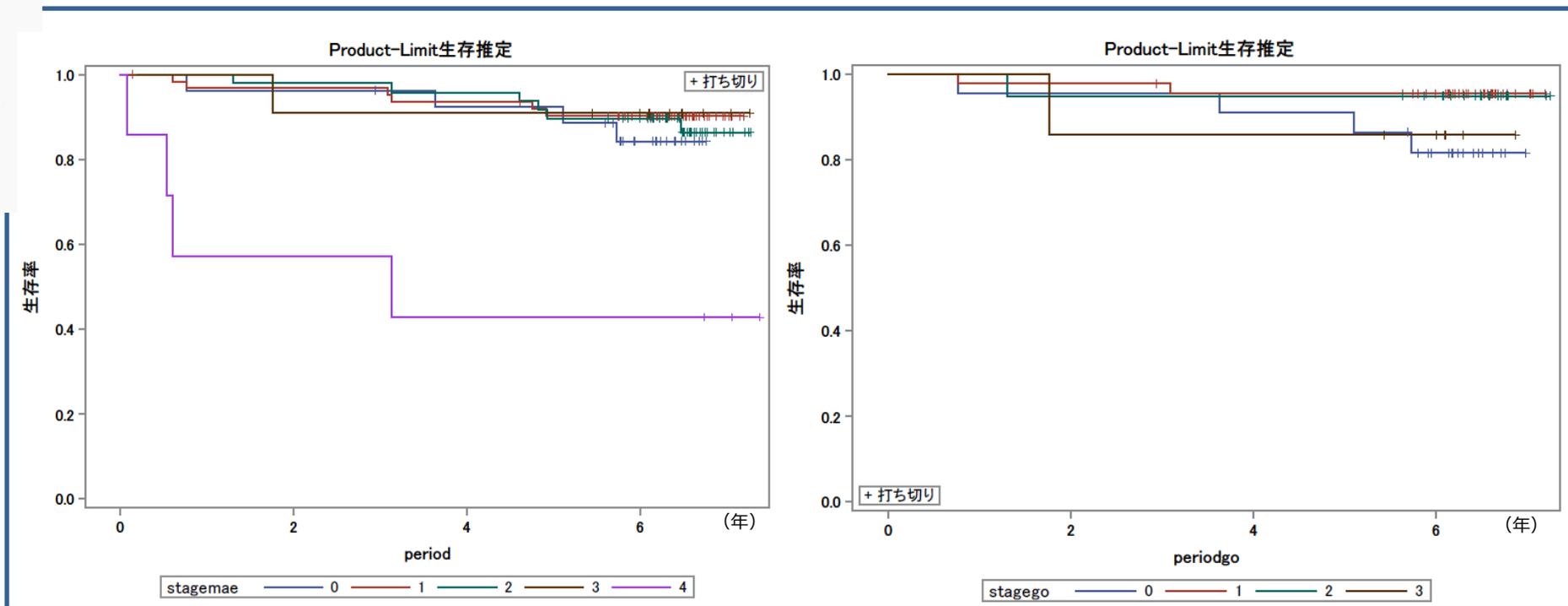
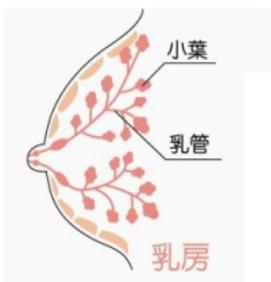


※ I 期の症例が多く、全体の半数以上であり、Ⅲ、Ⅳ期の実測生存率は7部位中では最も低い結果であった。
組織型は80%以上が腺癌であり、その他は印環細胞癌・GIST・MALTリンパ腫であった。



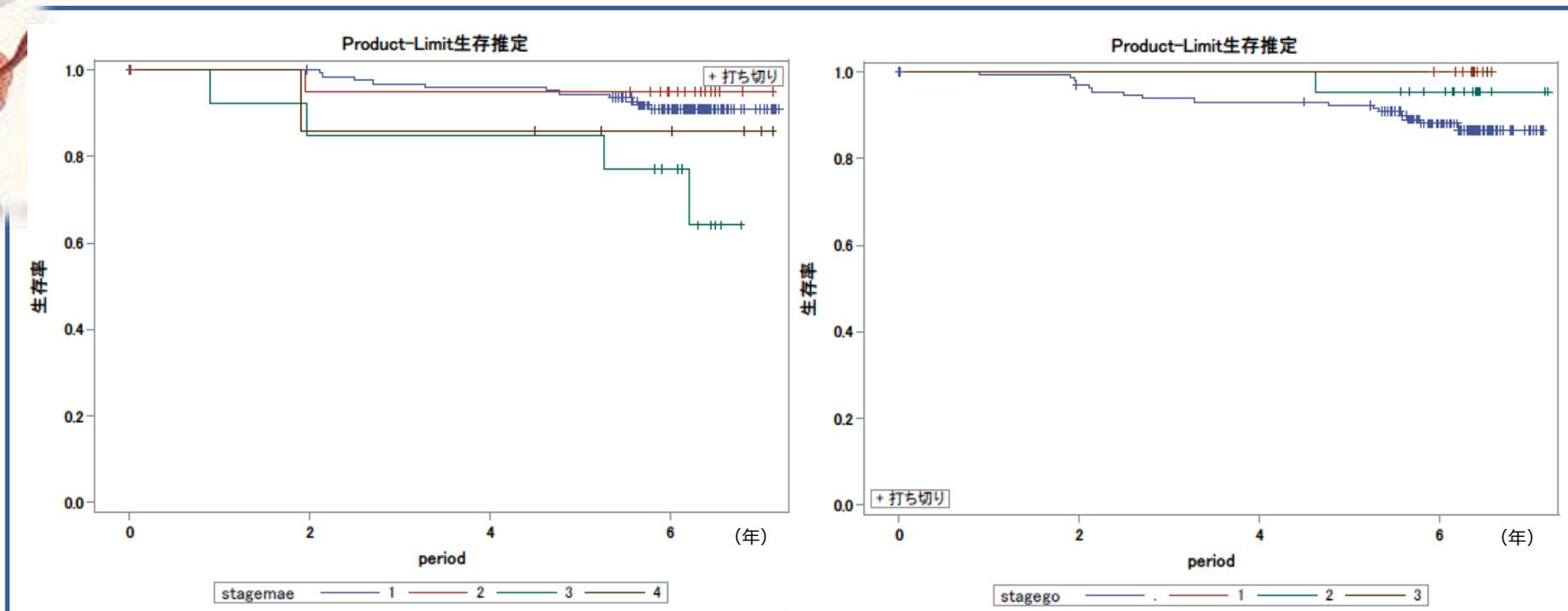
※ II 期以上の実測生存率が低かった。術後IV期については対象者数が少ないため参考値としてください。

昨年において徳島県は肝がん死亡率がワースト1であった。



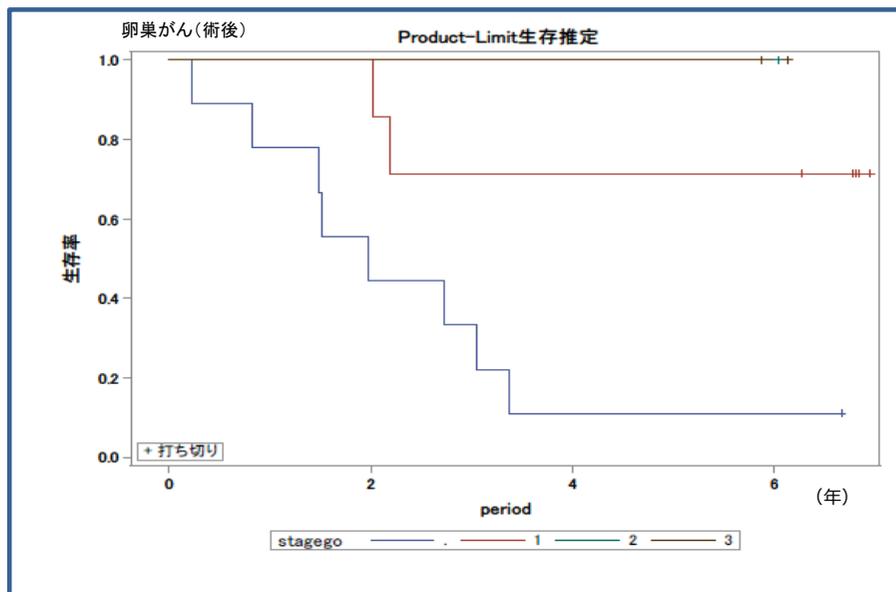
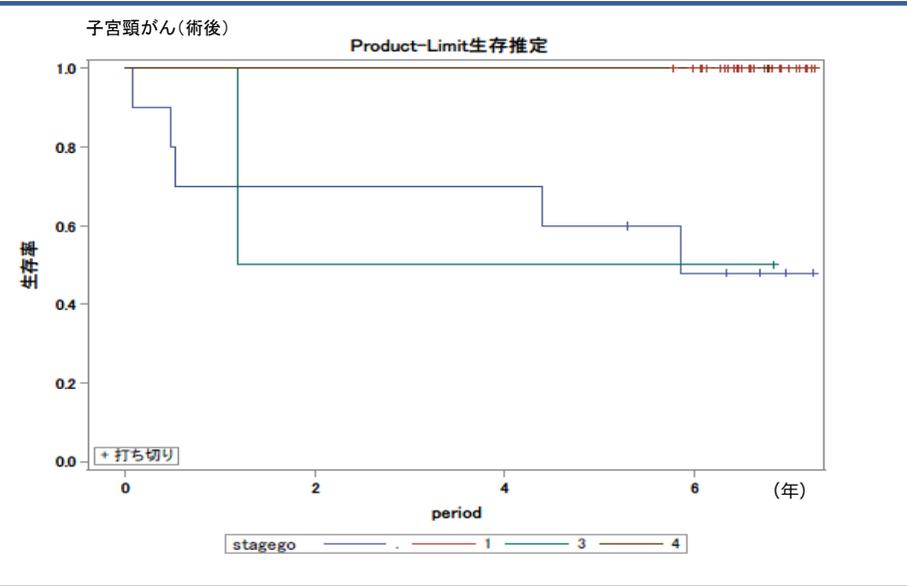
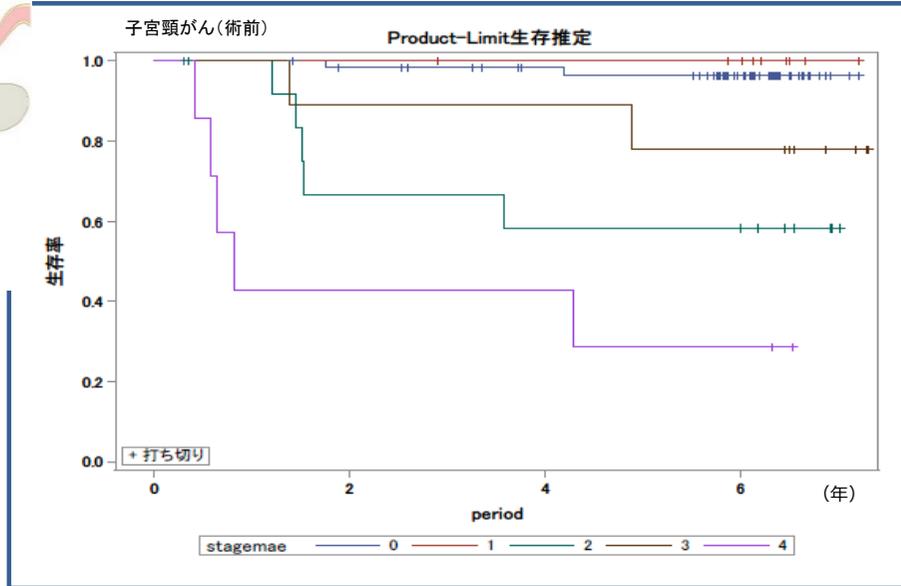
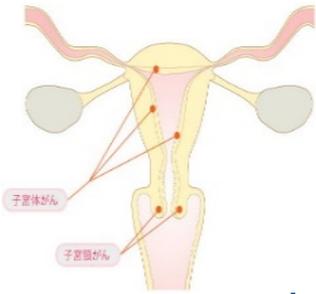
※ I 期の患者さんが最も多く、0期・I 期の患者さんについては、手術を多く実施している。

術前：0期～Ⅲ期では実測生存率が高かった。術後：全体的に実測生存率が高かった。

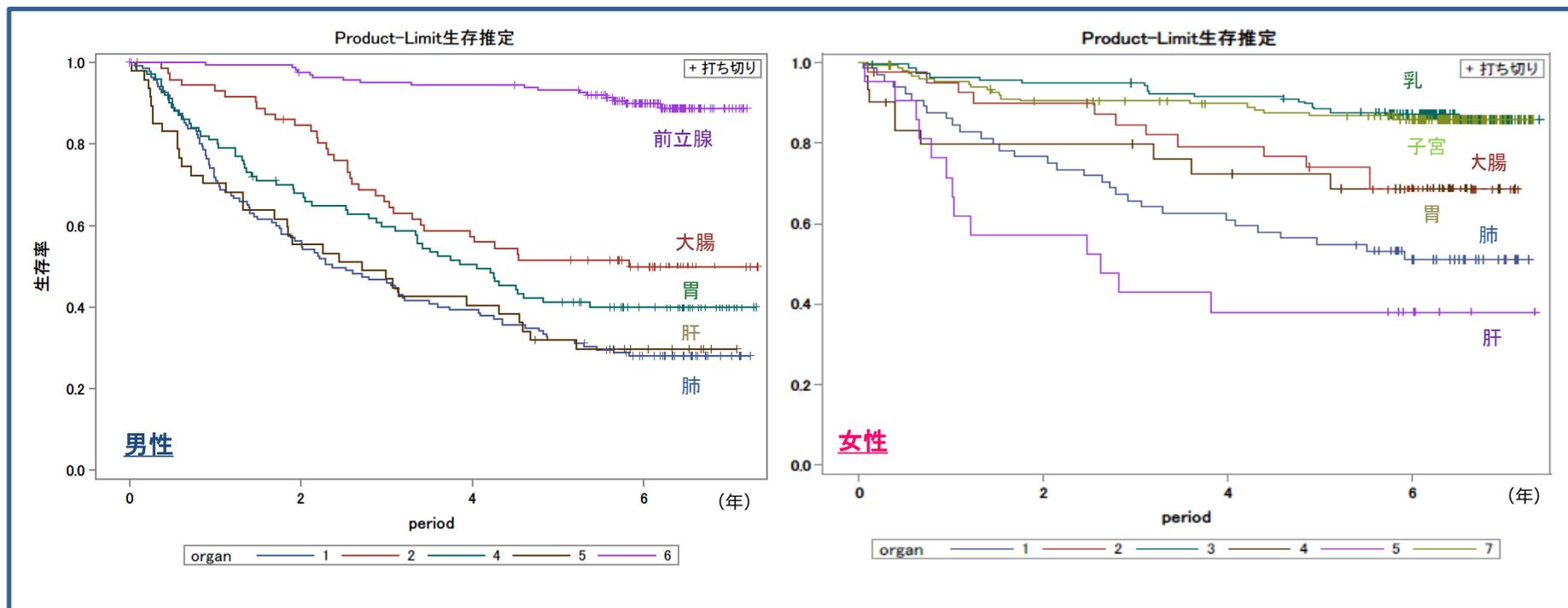


※実測生存率のとおり、がん種の中で、最も生存率が良い。前立腺がんの全体件数から70%以上がI期の患者さんであった。全体的に検討した臓器の中で最も実測生存率が高かった。

全体的に、検討した臓器の中で最も実測生存率が高かった。



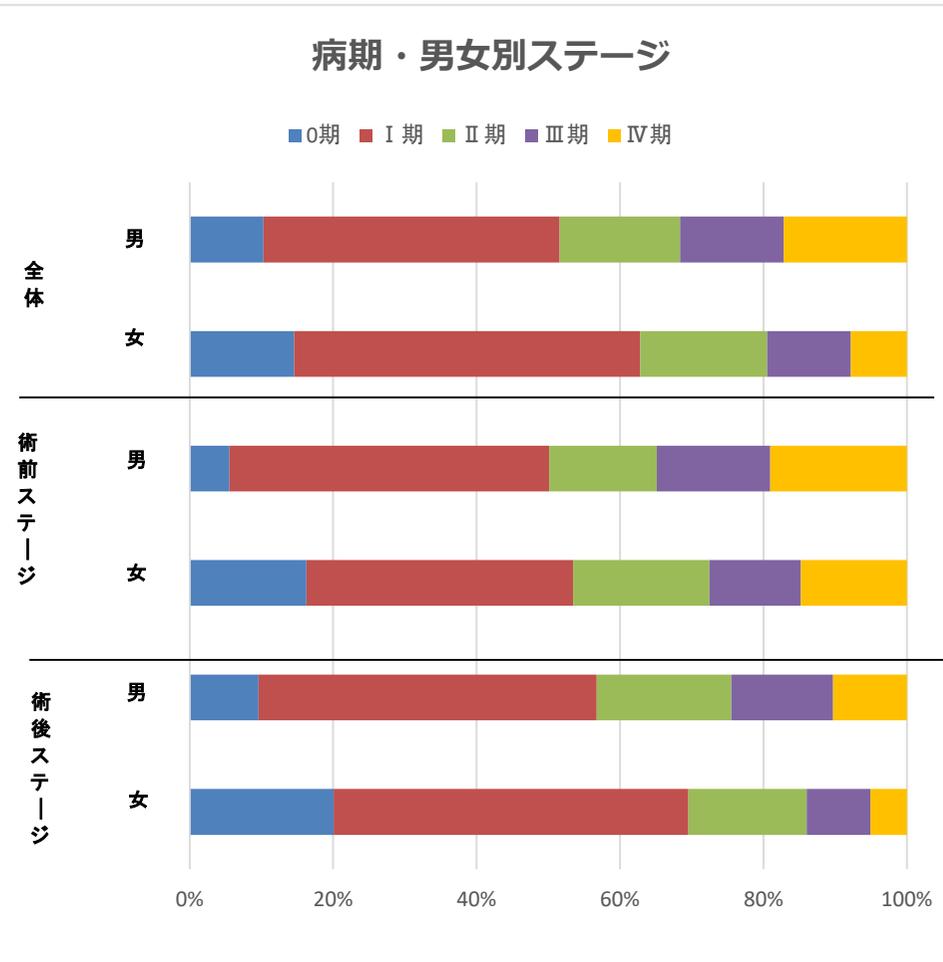
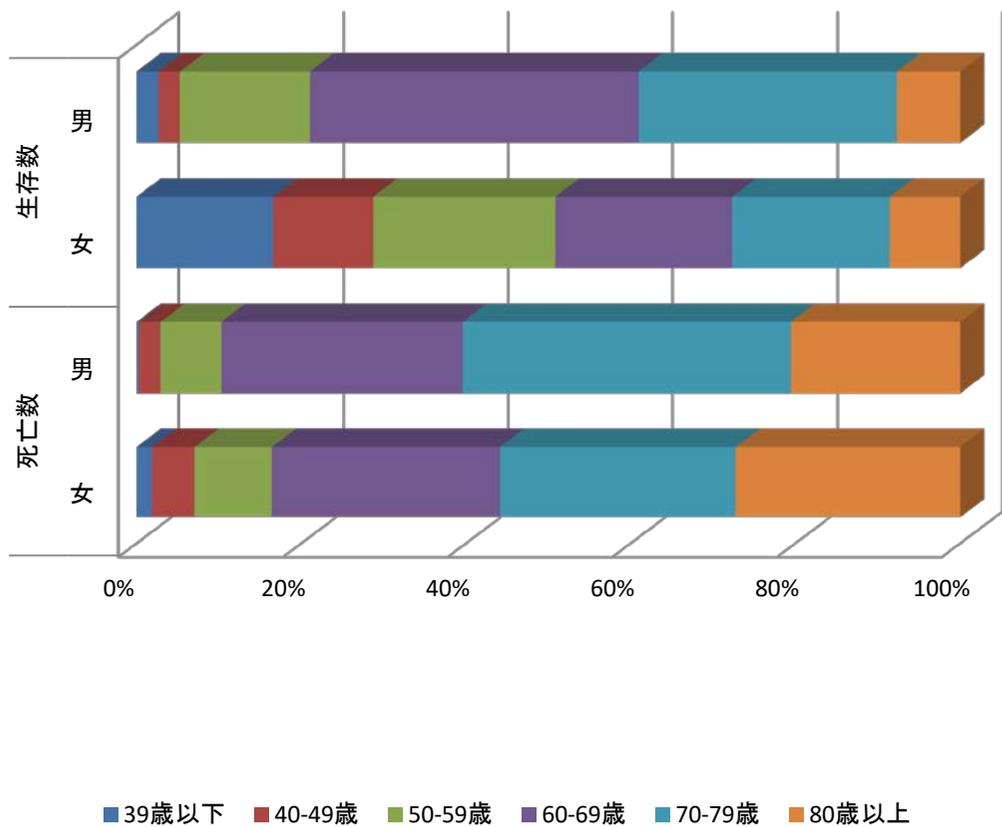
※子宮頸がんは、0期・I期の割合が多く、実測生存率が高かった。
 子宮体がんはI期の割合が多く、実測生存率が高かった。
 卵巣がんはI期の割合が多く、実測生存率が高かった。

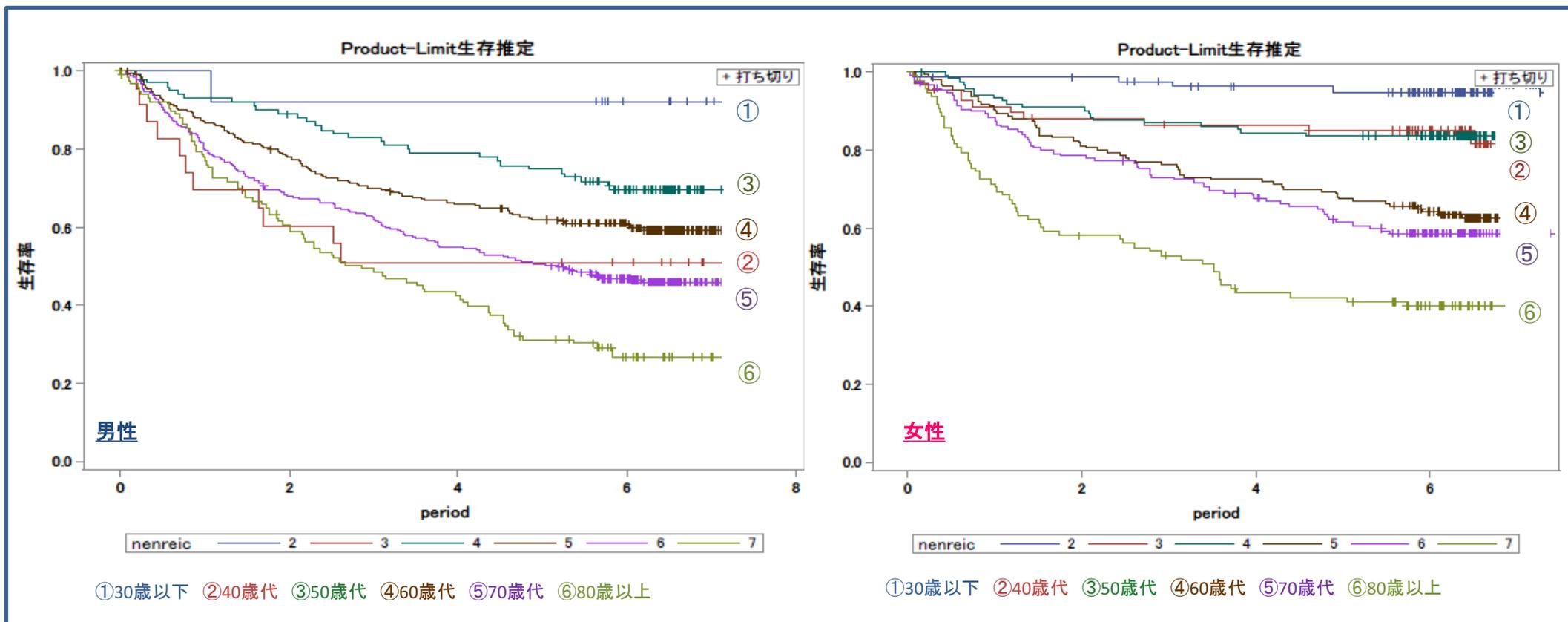


※対象患者として、最も多かったのは男性では、前立腺・肺、女性は乳・子宮であった。

実測生存率として、高かったのは男性では、前立腺・大腸・胃・肝・肺、女性では子宮体部・乳・子宮頸部・大腸・胃・肺・卵巣・肝臓の順にであった。男女差では、女性が比較的実測生存率が良く、最も良かったのが、乳・子宮がんであった。

前立腺がんは、標準誤差が低く、ばらつきが少ない。





※男性・女性ともに対象患者数は60歳代・70歳代が多い。男女比として、30歳代以下・40歳代・50歳代は男性<女性、60歳代・70歳代・80歳代は男性が圧倒的に多い。

すべての年代において女性と比較すると男性のほうが生存曲線が低い位置を示している。

男性の40歳代と70歳代と同じ位置を示している。よって、40歳代男性は実測生存率は低かった。女性は40歳代と50歳代の曲線が重なっており、男女年代別横棒グラフの生存数において、女性対象患者は各年代とも同じ割合であることが示されている。